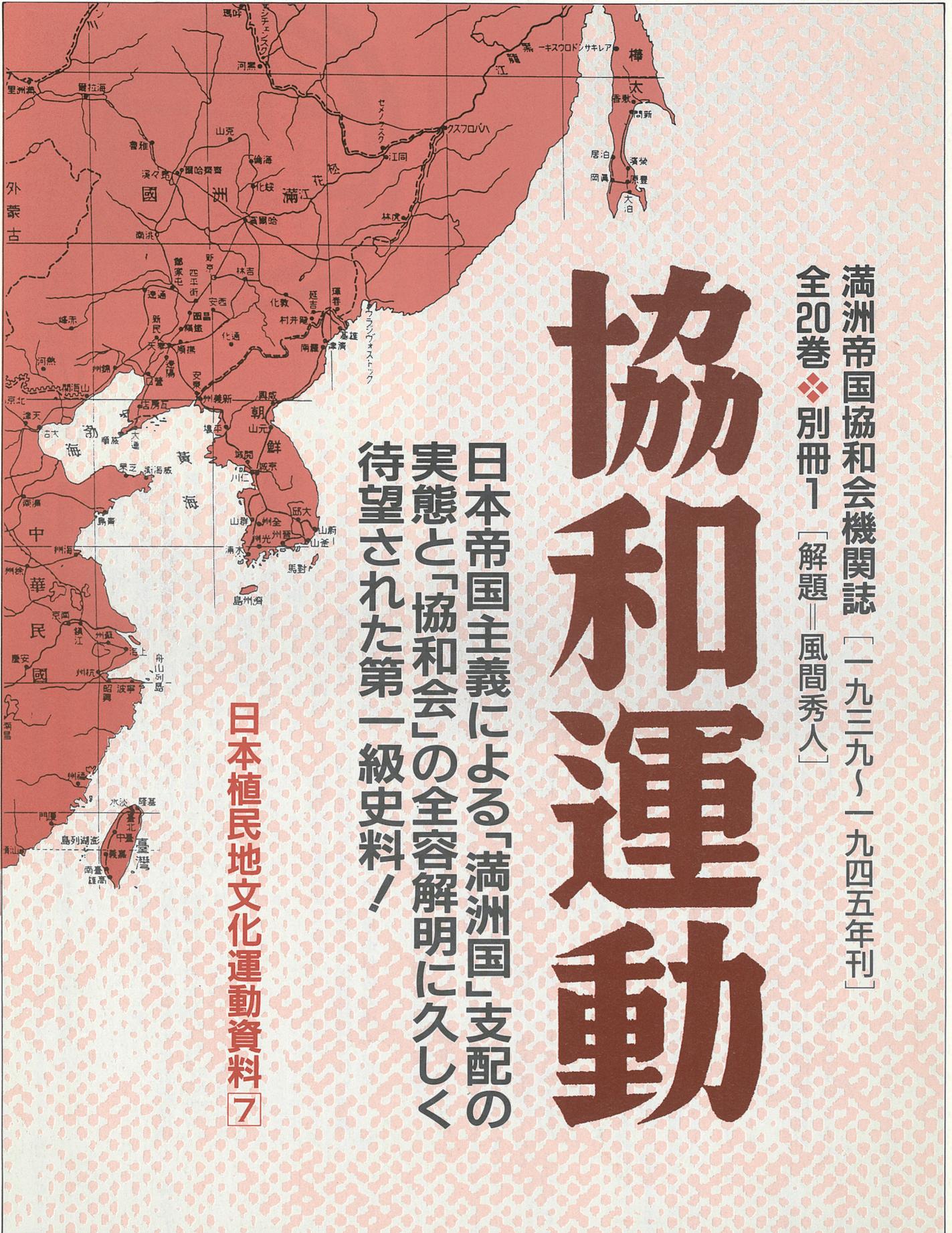


復刻版



満洲帝国協和会機関誌 〔一九三九〜一九四五年刊〕
 全20巻 ◆ 別冊1 〔解題—風間秀人〕

協和運動

日本帝国主義による「満洲国」支配の
 実態と「協和会」の全容解明に久しく
 待望された第一級史料！

日本植民地文化運動資料 7

緑蔭書房



刊行の辞

満洲帝国協和会(以下、協和会)は、「満洲国」建国の理念とされた「王道主義」・「民族協和」のイデオロギーを「満洲国」民衆に普及するために、一九三二年七月二十五日、関東軍の主導下に設立された思想教化団体である。協和会の思想教化団体としての性格は、一貫して堅持されていくが、日中戦争勃発前後から協和会は、「満洲国」の戦時体制を強化するために行政機構と一体化し、思想教育を中軸として民衆を戦時動員するための活動に力点を置くようになり、「満洲国」の統治上きわめて重要な地位を占めていくことになる。今回復刻する『協和運動』は、協和会が戦時体制下の「満洲国」にあつて多大の期待を担うようになっていく、一九三九年六月に月刊で創刊された協和会の機関誌である。日中戦争以降、「満洲国」は、日本本国の要請を受けて様々な民族動員工作を実施し、総力戦体制の構築・強化を画策するが、それらの策の推進母体の中心は常に協和会であつたといつても過言ではない。

創刊の言葉

橋本虎之助

豫てよりの希望であり、計畫であつた中央指導機関誌が、いよく此處に具體化し、「協和運動」といふ最も端的に吾々の使命を表現せる誌名をもつて誕生するに至つたことを何よりも先づ諸君とともに慶び度いと思ふ。

云ふまでもなく、此の機関誌は、吾々會務役職員を主體とする先達同志のものであり、これをして、眞に有力なる會運動の武器たらしめ、同志結束の紐帯たらしめるか否かは、かゝつて、吾々の双肩にある。殊に最近に於ける内外の情勢に照らし、協和会の現在に課せられたる重大使命を思ふとき、本誌の創刊が如何に深い意義を有するかを痛感せざるを得ない。

今や、世界の情勢は、獨ソ不可侵條約の締結を契機として、急轉直下し、歐洲の天地は再び大動亂を演ぜんとしつゝあり、防共協定は空文と化して、東亞も亦、此處に好むと好まざるとにかゝはらず、新らしき立場に立つこととなつたのである。歐洲の急變が、東亞にもたらす有形無形の影響は實に重大なるものであるが、かゝる事態に直面することによつて、東亞の立場はむしろ益々明瞭となり、吾々の進むべき方向はいよく「確固不動のものとなつたといふべきであらう。即ち、日本政府の聲明、ならびにこれに呼應せる我が政府の聲明の如く、日・滿兩國一心同體のもとに、自主獨往、一路支那事變の解決に向つて邁進

協和会の活動は、「満洲国」の国策に沿つて、民衆の思想教化を中心としつつ經濟をも含めた、あらゆる分野で展開されていた。

そして、このような協和会の全貌を余すことなく反映しているのが、その機関誌『協和運動』である。協和会が行つた様々な工作の方針や進捗状況、その反省や総括に関する論説、さらに「満洲国」・関東軍が民衆の戦時動員遂行のために発表した政策など、その解説も本誌に掲載されている。しかも本誌には、會務報告の他に、各地の会員から日常の活動に関連する生き生きとしたルポルタージュも多く寄稿されていることから、戦時体制下の「満洲国」をつぶさに見ることもできる。

このように『協和運動』は、日本帝国主義による「満洲国」支配の全容を把握するためには、不可欠の第一級史料であり、日本植民地研究の発展に大いに寄与するものと信じるものである。

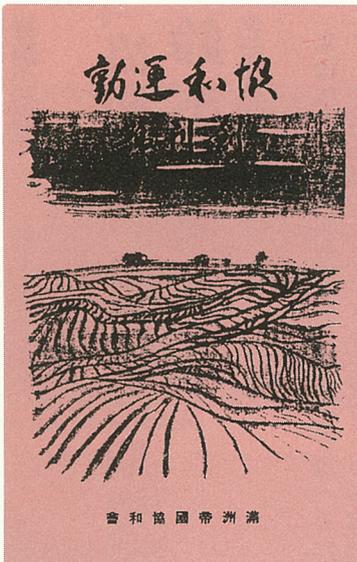
協和会の実像を解明する ための基礎資料

奥村 弘

神戸大学助教授

「満洲国」は中央・地方どちらとも議會を持たず、国籍も明確でない。そのかわりに政府と社会を繋ぐものとして協和会が大きな位置を占めていた。しからば「満洲国」国制上の協和会の位置はいかなるものなのか。これについてわれわれはかならずしも十全の回答をあたえることができない。その大きな理由の一つは、中央・地方とも協和会の実像がまだまだ明確になっていないことがあげられるであらう。

このような中で、各地の大学などに分散して所蔵され、入手しにくい協和会の基礎資料である『協和運動』がほぼ全巻復刻されたことの意義は大きい。ここには中央の方針だけでなく、各地の協和会についての記事が満載されており、協和会の実像把握のための情報が数多く含まれているからである。また『協和運動』創刊後の三九年から四〇年にかけて、協和会は転換期にあり、本資料はそれを正確に把握する上でも大きな意味を持つであろう。この復刻を契機として協和会の実像がいっそう解明されることが期待されよう。



創刊号の中扉

協和會運動の歴史的考察(一)

半田 敏 治

目 次	
第一期 草創期	(イ) 胎動期
第二期 過渡期	(イ) 黎明期
第三期 第一整備期	(イ) 本質開明期
第四期 第二整備期	(イ) 形式的整備期
第五期 運動展開準備期	(イ) 内容的整備期
第五期 運動展開期	(イ) 運動展開準備期

緒 言

古來、世界・人生の見方に關して根本的に相違する二つの解釋がある。其一は古代希臘の哲人パルメニデスによつて代表せらるゝ常住不變の世界觀である。即ち此の世界と存在と

四平街市の協和經濟工作

四平街市本部 板垣 守 正

一、緒 言

四平街市に於て市本部が現に展開しつつある協和經濟工作を報告して頂く前に、卒直に市本部の方針を披瀝して同志の御叱正を願つて置きたい。繁忙裡の蕪稿表現の粗弊に寛恕ありたい。

イ 行事に就て

儀禮的な式典行事は主として、市公署庶務科に司會を一任してある。勿論共同主催で協和會市本部の名は出し分會も動員するが此部面に市本部の精力を消耗しない方針で居る。建國精神の角度から面白からぬ事象があれば其都度警告を發する。併し市民大會國民大會

的な市民の意志統一を繰り込まねばならぬ性質の諸行事は協和會市本部が積極的に司會してゐる。

ロ 精神訓練・國民動員に就て

協和義勇隊公隊・青少年團・青年訓練所・並に國防婦人會の組織強化に専念する事に依つて其目的達成を期して居る。一般成年の分會に對しては毎月一日の朝禮會位で建國精神の直線的な押買は遣らない。上述の諸組織の活潑な行動に仍つて感化奮勵せしむる様に仕向けつつある。

ハ 經濟工作に就て

市本部の工作重點を専ら之に置いて居る。滿洲事變を第一段階、

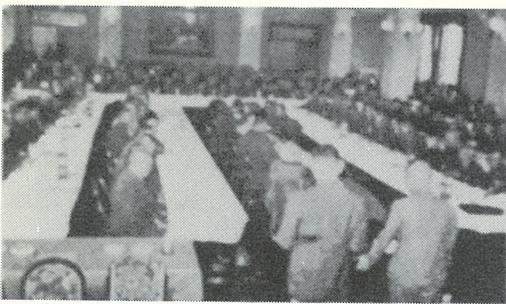
推薦の言葉

『協和運動』の復刻に期待する

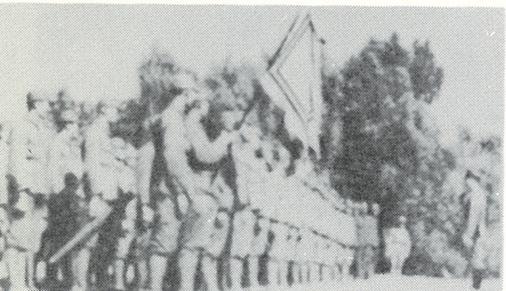
鈴木隆史

名城大学教授

私は以前「満洲国協和会」の歴史を調べるため、関係史料の蒐集にずいぶん苦労した。とりわけ戦時下の協和会の具体的活動を知るための史料は皆無に近い状態であった。そのときは、たまたま友人の好意で『協和運動』の一部を入手し、ようやく論文をまとめることができた。その『協和運動』の全巻が今ごく一部の欠号をのぞいて復刊されるといふ。「満洲国」や協和会に関心をもつものには願ってもない朗報である。いや、そればかりではない。知られるとおり、満洲国の協和会が日本の大政翼賛会をはじめ華北占領地の新民会、植民地朝鮮の国民総力朝鮮連盟、台湾の皇民奉公会、さらには南方占領地フィリピンのカリバピ（新生フィリピン奉仕団）やジャワ奉公会のモデルにされたことを考えると、戦時下協和会活動の具体的内容をつたえる『協和運動』が復刊されることは、植民地・占領地をふくむ日本の総力戦体制の実態を解明するうえでも、きわめて大きな意義があるといわねばならない。その意味で今回の復刊事業がとどこおりなく進むことをこころから期待したい。



第5回全国協和会連合協議会の開催



協和会の青年訓練所の訓練風景

満洲帝國協和會 第二部第二期第一次 訓練生の開拓地視察報告

第三次開拓團

瑞穂村視察報告

第一班 引率者 村上國吉
班員 菊池就之助 高橋松之助
中野謙太郎 磯村末吉
徳本 貞 霞註太郎
佐藤 勇 清水傳十郎
上田 隆 菊池利雄
安部文夫 江原義雄

三月廿一日 晴天

村上先生引率のもとに午前八時三十分トラックにて訓練所出發、午前九時二十分ハルビン驛發濱北線克魯河に向ふ。午後二時二十一分克魯河驛着、綏後縣青年訓練所有次指導員の出迎へを受け、馬車及びバスにて興農鎮街に至り瑞穂村辦事處にて少憩の後、開拓團トラックに便乗して興農鎮出發午後三時五十分瑞穂村へ

三月廿二日 晴天

到着す。本部事務所にて村長以下幹部との挨拶の後宿泊所に休養宿泊す。
起床（六時三十分）點呼禮拝朝食。
午後十時本部會議室にて樋口村長並に須江産業組合長の村行政並に産業組合經營に關する意見を拜聴し、直ちに晝食。午後一時より係員の案内にて綏後神社に參拜し、協同施設を見學し、直ちに各自指定せられたる個人家屋に分宿す。

三月廿三日 晴天

午前十一時各自宿部落より本部宿泊所に集合晝食の後、満人部落を視察し、小学校病院を視察し、宿泊所へ歸り各自視察事項の整理をなす。

青少年團運動の統一と新發足

滿洲帝國協和青少年團中央統監部の設立 青少年教化訓練の徹底と飛躍と綜合

協和會に於ては、康德七年七月二十五日、張會長の聲明「國本奠定の詔書を拜し全國協和會員に告ぐ」に明示された青少年訓練の大綱に基いて、その成果を期すべく青少年指導の「基本要綱」をそれ／＼關係諸機關と協議の上決定、着々實踐の準備を進めつゝあつたが、更に本年に入つて世界情勢の進展に伴ふ時局の重大化、大東亞共榮圈の確立に當面せる日滿華の現狀、及び國內地方の實態に鑑みて、次代の中堅國民たる青少年の教化訓練が如何に重大性をもつものであるか。またその指導に當つて各機關の綜合協力による國家總力の集中が如何に必要であるかが痛感せられるにいたり、青少年教化訓練の問題が、國民隣保組織の問題と並んで、協和會の康德八年度工作方針の二大重點の一として採りあげられ、茲に青少年團運動の一大飛躍を見ることとなり、三月八日遂に刻期的意義をもつ滿洲帝國協和青少年團中央統監部の設立結成式が擧げられたのである。

統監部は協和會の外席的存在となつて中央の訓練司令部ともいふべき指導統制機關であり、統監は協和會中央本部長とし中央統監部に事務局を置く。

左に運動指導要綱、組織要綱、設立經過報告を記す。

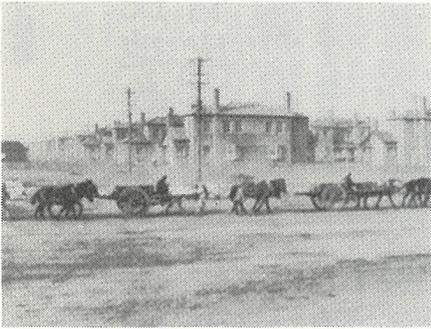
推薦の言葉

日本植民地下の社会教育運動の記録

槻木瑞生

同朋大学教授

この『協和運動』誌はさまざまな側面を持っているが、その一つに日本の植民地における巨大な社会教育運動の記録という面がある。青少年を動員する「協和運動」のような形態のものは欧米の植民地には見られず、その点で日本の植民地教育の特色の一つであって、日本の植民地を知る上で欠かすことができないものである。やがてこの運動の経験が「大東亜共栄圏」の各地に輸出されて「共栄圏」支配の主要な柱となっていくように、「協和運動」はただ「満洲」だけの問題ではなくその広がりは大い。もちろんその一方で日本の国内の社会教育政策とも密接な関係を持っている。だから、今日のように文化的な側面でアジア諸国といろいろな摩擦が見られる時において、こうした自らのアジア諸民族や文化との葛藤の経験を正確に見直す必要があるだろう。その意味でも、見る機会の少なくとも『協和運動』誌の復刻を歓迎する。



建設途上の新京市街地



古都奉天の駅前広場

第4巻第7号

第3巻第12号

(103)

—表年史年十會和協—

年月日	重	要	事	項
昭和六、九、一八	満洲事變動發			
大同元、三、一	満洲國獨立			
大同元、四、二	奉天商埠地三經路舊交通委員會廢合社			
大同元、四、一五	満洲協和黨設立案國務院會議ニ於テ可決サレ設立委員トシテ阮振鐸、于靜遠、山口重次、和田勁、王仁澤(小澤開策氏ノ改名)ノ五氏正式任命アリ			
大同元、五、一五	北滿特別工作隊編成サレ、同志七二名勇躍壯途ニ就ク			
大同元、五、一九	北滿工作員呂維清君松花江上ニ於テ遭難殉職ス			
大同元、五、二七	東邊道特別工作隊編成サレ同志一七名山口委員引率ノ下ニ安東ニ向ケ出發ス			
大同元、五、二八	満洲協和黨ヲ協和會ト改稱内定、尙設立委員ニ板垣四郎、片倉衷、張燕卿、謝介石、小山貞知			

協和會十年史年表

—調査部編—

— 考察一のてい付に針方導指と況概の人群朝るけに於に洲滿 — (120)

滿洲に於ける朝鮮人の概況と

指導方針に付いての一考察

青木一夫

内 容

- 一、朝鮮人滿洲移住の沿革
- 二、全滿に於けるその人口及職業の概況
- 三、宗教、教育、金融及經濟の概況
- 四、滿洲國に於ける米作と朝鮮農民の貢獻
- 五、在滿朝鮮人指導に關する問題の二、三

一、朝鮮人の滿洲移住の沿革

朝鮮人が何時頃から滿洲へ移住を開始したかについては史

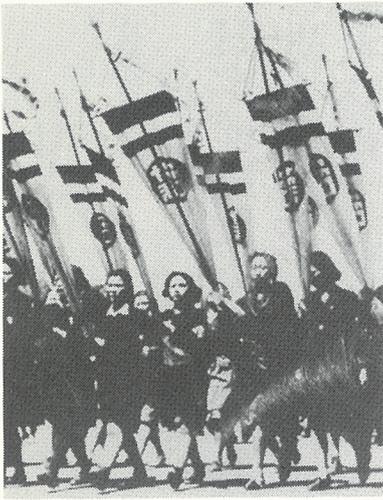
上據るべきもの極めて少ない有様であるが西曆一六二八年清の太宗が鴨綠江下流椶盤より鳳凰城を経て遼陽遼門、城麻門、旺清邊門に到る一線に於て防備を施した史實に徴して既に十

植民地政治史、植民地青年運動史(社会教育史)研究に最も価値ある資料

大森直樹

東京学芸大学助手

直木賞作家の榛葉英治の小説『満州国崩壊の日』のなかに、ひとりの日本人協和会職員が登場する。民族協和の理念に憧れを抱き協和会職員となるが、やがて協和会が「満州国」支配の下請け機関にすぎないことを悟っていく過程が描かれている。雑誌『協和運動』には、ここに描かれたような地方の協和会職員の投稿が多く寄せられている。彼らの投稿文は使命感や批判精神に満ちているが、どこか哀しい調子を帯びている場合が多い。植民地支配の矛盾を感じながらも結局はその支配の末端に位置づけられていた人びとである。さて、今回、『協和運動』ほぼ全巻の通説がはじめて可能となった。植民地統治の具体的な実態、とりわけその末端に位置した人びとの心情にまで迫る資料は極めて得がたい。植民地政治史として植民地青年運動史(社会教育史)研究上、もっとも価値のある資料である。とくに協和青少年団や大東亜青少年指導会議についての基礎データも満載しており、教育史・社会教育史研究上の必携の資料でもある。



「満洲」建国10周年の大会 (新京)

南京派遣青年隊の手記

祝、華、行、紀

副監督 尉 鳳 翥

筆者下筆的時候、頗感有無限の榮幸、在中國還都紀念式典の三週年、得以引率協和青少年團員の健兒們、去參加慶祝、同時並可參加汪主席閣下の閱兵式、和全國青少年團總檢閱、幹部以下同深感激。隊の一、幹部以下二十六名、他們都同我一樣抱負着榮幸的觀感、維持着慶祝的赤誠、去勇躍的參加了式典。

日滿華三國。基於共同宣言以後、互相關係、一天比一天密切、友情益發堅固、邦交已固、由於同甘共苦的邦交、一變而為同生共死的關係、這正是此次中國對美英宣戰所反映的效果和決意、爲東亞將來想、我們正可以欣歡默祝不已的一件事。

我國的派遣隊、在急忙選擇召集之下很活潑的協和青年朋友們、倒却是在想像以上的健壯、他們精神充足、體魄堅實真令我們引率監督的人們、感覺有十分的滿足、同時

在就道之後、記得奉天的青少年團代表、鄂亞相君、說我們受着這道榮光榮的歡迎在感激之下、死已足矣、可見隊員一體的決心、爲國家代表、去示範友邦、以慶祝團結的目的。

中國青年運動の動向

大東亞青少年指導會議より獲たる

青少年部

吉 野 福 一

大東亞青少年運動と指導會議の意義

我が滿洲國に於ける大東亞青少年運動の發足は、滿洲國の自體の中に發生し、爾來十有年の成育を遂げて來たものと云ふことが出来る。即ち協和會創立の理念とし、建國綱領として掲げられた彼の滿洲國建國の目標の中に「滿洲國建國の目標は、

太平洋を中心とする最期の世界争戰に備ふること、即ち露國の極東攻勢を断念せしめ大陸資源の利用開發を計るのみならず、東亞民族を糾合して以ての大事業に當る抱負は、東亞の小利のみに走ることをなく、東亞各國親善の基礎たるべき民族協和に根本着眼を置かざるべからず」と、實に滿洲國の建國は既に早く、今日の世界の東亞時局を觀照して大東亞戦争、即ち太平洋中心とする世界戦争の一大決戦は

値ふところがあつたのである。斯かる建國精神協和會創立の理念を維持顯揚せんとする我が協和青少年運動の目標も又、必然に、大東亞各國青少年をして、滿洲國の建國を理解せしめ、滿洲國の建國即ち大東亞共榮團建設を共同の實踐目標として、東亞各國親善の基礎たるべき青少年が親和大同團結を求むることは當然と云はねばならない、加へて大東亞戦争の進展は、新中國、フイリピン、泰、ピルマ、自由印度等々、日、滿と共に大東亞戦争を共同の戦ひとし、米英を共同の敵とする運命共同體に自覺する東亞運動が澎湃として起り其の第一回東亞團體會議が廣徳九年我新南京に開催され同席上東亞運動の推進力として活潑なる大東亞青少年運動の展開が要望され、之れが指導力結果として大東亞青少年指導會議の設置決定を見、第一次を翌十年に日本領東京に、今次中

國領首都南京に其の第二次指導會議の開催を見るに至つたのである。指導會議參加の心構 大東亞青少年運動並に指導會議の意義に就いては以上概略の如くであるが、特に今次の議會の持つ意義は、大東亞戦争の決戦の時局下に対応する東亞各國青少年運動の決戦的方向を決定するものであり、然も、和平、抗戦の兩陣營に分裂する中國に於いて、頑迷なる抗戦重慶と對立しつつ日滿と共生同死を誓ひ、和平建國に邁進する新生中國の首都南京に於て開催されると云ふことである。我々、兄弟、親愛なる中國の青少年は大東亞戦争を如何に考へ、如何なる態度で此の戦を見、且つ戦ひつつあるのであらうか、此の戦を必勝と信じ現貨の勞苦を明日の樂土建設のものとして克服しつつ希望に輝いて居るであらうか

- 開拓地の土地紛争問題経過報告(1巻1号)
- 農村金融の現状と協和会金融委員会(1巻2号)
- 「特輯」協和義勇奉公隊の諸問題(1巻2号)
- 我国統制経済政策の解説(1巻4号)
- 協和会運動の歴史の考察(2巻1号)
- 民族協和運動要綱(2巻2号)
- 協和青年行動隊記(2巻3号)
- 住宅対策と家賃統制(2巻5号)
- 中国国民党の文化工作(2巻7号)
- 満洲国の文化工作について(2巻8号)
- 満洲開拓青年義勇隊改革案私案(3巻1号)
- 青年団運動の統一と新発足(3巻4号)
- 青年義勇隊運動最近の動向(3巻4号)
- 全滿協和青少年団勢統計(3巻4号)
- 白系露人青少年団の動き(3巻4号)
- 国民隣保組織はいかに育成すべきか(3巻5号)
- 満洲文化の特質(3巻7号)
- 朝鮮国民総力運動に就て(3巻8号)
- 大重細重地圏論(3巻8号)
- 協和会運動の現状(4巻7号)
- 協和会出版資料目録(4巻7号)
- 協和会十年史年表(4巻7号)
- 奉公隊運動の段階的考察(4巻7号増刊)
- 満洲農村問題の基本課題(4巻10号)
- 「研究報告」土着資本の中核たる合肢組織の沿革とその構成(4巻12号)
- 満洲国基本国策大綱(5巻1号)
- 協和青少年運動の現段階(5巻1号)
- 協和会運動理念と実践(5巻2号)
- 戦時協和会の任務と民族思想対策(5巻5号)
- 協和会運動基本要綱覚書(5巻6号)
- 南京派遣青年隊の手記(5巻7号)
- 国民勤勞奉公制と協和運動(5巻8号)
- 村建設要綱解説(6巻2号)
- 青年団運動の研究(6巻4号)
- 協和運動の先駆性(6巻7号)
- 戦時工作要綱解説(6巻9号)
- 中国青年運動の動向(6巻12号)
- 思想戦に於ける協和会運動の再認識(7巻3号)

日本植民地文化運動資料

1 6 「既刊・好評発売中！」

植民地満洲の学術・出版の実相を克明に記録、昭和激動期の文化状況を伝える総合書評誌！

1 書香

本誌の内容は、大連を含め各満鉄図書館の活動の記録、満洲の出版界の動向、北アジア大陸の諸文化、関東軍の動向に関連した情報、各種の文献目録等多岐にわたる。満鉄図書館史はもとより、満洲史、中国史、軍閥係史、アジア史研究にとって資料の宝庫。

全8巻・別冊1／満鉄大連図書館編
 大正14年4月↓昭和19年12月 全158冊
 解題―稲村徹元 揃定価144,200円

満洲文芸、北方文化に関する貴重な記事・作品、文献・資料の紹介に努めた総合文化誌！

2 北窓

満洲学芸史研究上、重要な意味を持つ本誌は、満鉄傘下の一図書館報の枠を超え、在滿邦人の知的要求に応えた高級でモダンな総合文化雑誌であった。その内容は歴史・民俗・芸術・教育・出版・書評など、満洲における文化事業の全般に及ぶ。

全5巻・別冊1／満鉄哈爾濱図書館編
 昭和14年5月↓昭和19年3月 全26冊
 解題―西原和海 揃定価82,400円

満洲史、清朝史、対露交渉史など質の高い研究論文を多数所収。東北アジア史研究に必須！

3 収書月報

本誌の特色と内容は、何よりも館長衛藤利夫の個性と情熱によって収集された満蒙・シベリア等辺境研究図書に表われている。質量ともに充実したこれら資料を駆使した多数の研究論文や書籍・雑誌解題や紹介は、東北アジア史研究に必須の基礎資料。

全8巻・別冊1／満鉄奉天図書館編
 昭和11年2月↓昭和18年9月 全91冊
 解題―小黒浩司 揃定価135,000円

満洲文化の向上を企図して刊行した唯一の読書雑誌！

4 満洲讀書新報

本誌は満洲における読書文化の発展に貢献することを使命とし、満洲の文化人に発言・寄稿の場を広く提供した。その紙面は満洲の出版界・読書界・図書館界の動向はもとより、随筆、書評、書誌、書論、古本趣味、図書紹介等極めて多形で、興味は尽きない。

全2巻・別冊1／満洲讀書同好会編
 昭和11年1月↓昭和20年4月 全95冊
 解題―西原和海 揃定価41,200円

日本植民地最大にして戦前では日本最大の図書館報。待望の完全復刻版！

5 文獻報國

本誌は、日本植民地最大の社会教育施設の機関誌として、また文献保存及び重要社会政策であった民衆の教化皇民化を目的として大きな役割を担った。その紙面からは随所に植民地政策が読みとれる。「侵略と文化」を考える上で欠かせない原資料である。

全12巻・別冊1／朝鮮総督府図書館編
 昭和10年10月↓昭和19年12月 全102冊
 解題―藤田豊 揃定価247,200円

日中戦争期の中国研究に欠けていた学術・文化史的側面の資料を埋める貴重な記録！

6 中國文化情報

本誌は日中戦争下の日本の対中国文化活動の状況、蒋介石重慶政権下・日本の傀儡政権下の教育動向、社会科学の動向や中国文化界の動向を知る貴重な資料を収録。近現代中国の教育史、科学史、日中関係史、植民地研究に不可欠の学術情報誌。

全6巻・別冊1／上海自然科学研究所編
 昭和12年5月↓昭和16年12月 全31冊
 解題―阿部洋 揃定価111,240円

協和会の実像を解明するための基礎資料！
奥村・弘神戸大学助教授

植民地政治史、植民地青年運動史（社会教育史）
研究に最も価値ある資料！
大森直樹（東京学芸大学助手）

『協和運動』の復刻に期待する！

鈴木隆史（名城大学教授）

日本植民地下の社会教育運動の記録！

梶木瑞生（同朋大学教授）

協和運動

全20巻◆別冊1 満洲帝国協和会編

◆刊行概要

体裁 A5判・B5判 / 上製クロス装 / 函入

頁数 総約9,500頁

解題 風間秀人

揃定価 400,000円（消費税は別です）

配本期間 '94年10月～'95年11月 全5回配本

◆配本のご案内

（消費税は別です）

第1回配本 '94年10月刊 配本価格78,000円

第1巻 第1巻1号～第1巻3号 3冊

第2巻 第1巻4号～第2巻1号 2冊

第3巻 第2巻2号～第2巻4号 3冊

第4巻 第2巻5号～第2巻7号 3冊

第2回配本 '95年2月刊 配本価格78,000円

第5巻 第2巻8号～第2巻10号 3冊

第6巻 第2巻11号～第3巻1号 3冊

第7巻 第3巻2号～第3巻4号 3冊

第8巻 第3巻5号～第3巻7号 3冊

第3回配本 '95年5月刊 配本価格78,000円

第9巻 第3巻8号～第3巻10号 3冊

第10巻 第3巻11号～第4巻1号 3冊

第11巻 第4巻2号～第4巻6号 5冊

第12巻 第4巻7号～第4巻9号 3冊

第4回配本 '95年8月刊 配本価格98,000円

第13巻 第4巻10号～第5巻1号 3冊

第14巻 第5巻2号～第5巻5号 4冊

第15巻 第5巻6号～第5巻8号 3冊

第16巻 第5巻9号～第5巻10号 3冊

第17巻 第5巻11号～第6巻1号 3冊

第5回配本 '95年11月刊 配本価格68,000円

第18巻 第6巻2号～第6巻6号 5冊

第19巻 第6巻7号～第6巻11号 5冊

第20巻 第6巻12号～第7巻4号 5冊

別冊 解題（風間秀人）・総目次・索引



「王道樂土大満洲国」の碑（山海関角山）

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

お申込みは

1994.9